



HOTEL EUROPE, SARAJEVO

ホテル ヨーロッパ「Hotel Europe, Sarajevo」はサラエボを代表する名門ホテル「Hotel Evropa」の固有名を掲げて 1882 年にグランドオープンした。ボスニア・ヘルツェゴビナにとって、西欧で見られる近代的な諸施設を完備した最初のホテルとして旧市街中心に建てられた

路面電車が走るボスニア・ヘルツェゴビナの首都サラエボのメインストリート。旧ユーゴスラビア解体の際に生じた泥沼の内戦から現在は街の復興も進み、イスラム、カトリック、東方正教会、ユダヤ教の各宗教施設が並びあうサラエボの魅力は色あせていない



ホテル ヨーロッパのロビーラウンジ。東欧の国々はフランスやドイツの西欧文化に憧れ、国威発揚を兼ねて自国の最高のホテルに "Hotel Europe" の名称を与えるケースは多い



新たに設けられたオープンエアのガーデンラウンジ



“欧州の火薬庫”と呼ばれるバルカン半島は民族の坩堝である。市内中心部のラテン橋にサラエボ事件の様子を解説したサラエボ博物館がある



1914 年、サラエボを訪れたオーストリアの皇太子がセルビアの一青年によって射殺された。このサラエボ事件をきっかけに第一次世界大戦が勃発したことは周知の事実である



筆者 **小原 康裕**
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒業
投資顧問会社 Haraken & Co., Ltd. CEO
JHRCA 日本ホテルレストランコンサルタント協会 専務理事
JARC 宿泊施設関連連協会
アドバイザー・ボードメンバー
SKAL International Tokyo, Professionnels du Tourisme 会員

www.jhrca.com/worldhotel/?cat42
www.hoteresonline.com
https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16

New Site (随時更新中)
www.wlhj.jp



ホテル ヨーロッパの館内は何回もリノベーションを繰り返し近代的な姿になっている

Hotel Europe, Sarajevo

ホテル ヨーロッパ「Hotel Europe, Sarajevo」はサラエボを代表する名門ホテル「Hotel Evropa」の固有名を掲げて 1882 年にグランドオープンした。ボスニア・ヘルツェゴビナにとって、西欧で見られる近代的な諸施設を完備した最初のホテルとして旧市街中心に建てられた。東欧の国々はフランスやドイツの西欧文化に憧れ、国威発揚を兼ねて自国の最高のホテルに "Hotel Europe" の名称を与えるケースは多い。創業当時の Hotel Evropa は、建設から第二次世界大戦までの 60 年間はサラエボの実業家によって所有・運営されて

いた。1945 年から始まる共産主義時代には「HTP Evropa」などの国営企業によって国有化され、ボスニア内戦の混乱期を経て、2006 年にサラエボに本拠を置く「Astrea」によって買収・民営化された。

“欧州の火薬庫”と呼ばれるバルカン半島は民族の坩堝である。1914 年、サラエボを訪れたオーストリアの皇太子がセルビアの一青年によって射殺された。このサラエボ事件をきっかけに第一次世界大戦が勃発したことは周知の事実である。当時、ボスニア・ヘルツェゴビナはオーストリア・ハンガリー帝国の支配下にあり、とくにセルビア人がこれに反感を持ち犯行に及んだ訳だ。市内中心部のラテン橋に当時の様子进行を解説したサラエボ博物館「Muzej Sarajevo」が



アッパーカテゴリーの「Superior Room」のベッドルーム。ホテル ヨーロッパは 14 のスイートを含む全 174 室を擁す歴史のホテルだ。館内はモダンな姿に改修されたが、旧共産圏時代の匂いがいまだに感じられる



開業当時から地元の社交界に愛されてきたカフェ「The Viennese Caffee」。古き良き時代の雰囲気を残し、ウィーンとドイツ文化の華やかな側面を演出している



玄関ホワイエから望むベッドルーム。約 40㎡の広さを持ち、クラシカルな雰囲気が漂う



バスルームなど水回りは上手く改修され、トイレもビデが付帯している



カフェ「The Viennese Caffee」からサロン「Atrium」を望む



「Atrium」は気品あるサロンで、婚礼披露などのパーティーに多く利用されている

ある。この国は、セルビア人＝東方正教会信者、ボシュニャク人＝イスラム教徒、クロアチア人＝カトリック教徒などの異なる民族が混在しており、これが後に起きる旧ユーゴスラビア解体の際に生じた泥沼の内戦となり、冬季オリンピックも開催した首都サラエボは壊滅的な状況に陥ることになる。

ホテル ヨーロッパは 14 のスイートを含む全 174 室を擁す歴史のホテルだ。館内はモダンな姿に改修されたが、旧共産圏時代の匂いがいまだに感じられる。今回はアッパーカテゴリーの「Superior Room」をご紹介したい。約 40㎡の広さを持ち、クラシカルな雰囲気の中、バスルームなど上手く改修されている。開業当時から地元

の社交界に愛されてきたカフェ「The Viennese Caffee」は古き良き時代の雰囲気を残し、ウィーンとドイツ文化の華やかな側面を演出している。隣接してある「Atrium」は気品あるサロンで、婚礼披露などのパーティーに多く利用されている。

現在は街の復興も進み、イスラム、カトリック、東方正教会、ユダヤ教の各宗教施設が並びあうサラエボの魅力は色あせていない。ホテル ヨーロッパの外観は何回もリノベーションを繰り返し近代的な姿になったが、ソフトの部分については、従業員の大半は前時代的な意識のままである。ある意味、かつて国家統制が長く続いた国の“迎賓館的ホテル”を体験するのも旅の面白さであろう。



メインダイニングの朝食風景。都市ホテルとしては珍しいハーフボード（夕食、朝食込み）のレートも提供している



日本では珍しいボスニア風トルココーヒー